

『感謝をつなぐために』

練馬区立石神井西中学校

二学年 阿部 陽美

自分に使われている税金について考えた時、真っ先に浮かんできたことがある。昨年の夏、

私は練馬区の海外派遣事業によりオーストラリア研修に参加した。これは純粹にオーストラリアに行きたい、という強い希望からだった。しかし、この研修を支えてくれていたのは、ホストファミリーや先生方、練馬区役所の方だけでなく練馬区の税金だったという事実が思い浮かんだ時、背筋がピンと伸びた。そして、この貴重な体験を何としてもこれから活かし、育ててくれた社会に還元しようと強く思った。

私たちは日々当たり前前に過ごしている。学校の校舎、教材、先生方の授業、そして医療費さえも無料という現状に慣れすぎて、それらが税金のおかげで成り立っていることに鈍感になっている。税のことを学ぶことにより、毎日当たり前に開く教科書にさえも、ありがたみを感じるようになった。日々の生活が快適なのは、多くの方が一生懸命に働き、納めてくださる税金のおかげだと気づくと、自分

がいかに税金に支えられて教育され、成長してきたのかがわかる。

自分が今、支払うことのできる税金は消費税だけだ。八パーセントが十パーセントに上昇する、というニュースを聞いて少し抵抗を感じていた。また、両親の確定申告の話聞き、結構な額だな、と漠然と感じていたがそのおかげで今の自分があり、教育において良い環境と経験を与えてもらっていると感じてからは、納税に対する印象が百八十度変わった。

私たちは税によって育てられている。それは、次世代への投資に近いのかもしれない。海外派遣事業を行ったからといって、海外に派遣された人がすぐに納税をするわけではない。しかし、このような事業を通して、多くの刺激を受け、海外を通して日本を今までとは異なる視点で見ることができた時、明らかにそれまでと考え方が変わった自分に気づくことができた。また私は、日本で生活できることが、いかに恵まれていることが改めて

感じた。練馬区の納税者に育てていただいたことに心から感謝している。だから、自分が納税者になった時には、しっかり税を納めることで、次の世代の生活や教育を支え、バトンをつないでいきたい。そうすることで、自分と同じように貴重な体験ができる生徒が一人でも多くなればいいと思う。そして、自分のために特別にかけてもらった税金を無駄にしないよう、感謝を忘れずに社会に貢献できる人を目指し、努力し続けたい。